

# Takamatsu Contemporary Art Annual vol.04 Regarding the Reality



石黒 浩(米朝アンドロイド)2012年

2014 5/27(火) → 6/22(日) 休館日=月曜日

石黒 浩 / 大西伸明 / 小沢裕子 / 橋爪 彩

Hiroshi Ishiguro / Nobuaki Ohnishi / Yuko Ozawa / Sai Hashizume

高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.04

リアルをめぐって

**同時開催 高松市美術館コレクション展「もうひとつのリアル」**

開館時間=9:30~19:00(日曜日9:30~17:00) 入館は閉館30分前まで

入場料=一般800円(640円)、大学生500円(400円)、高校生以下無料

\*()内は前売及び20名以上の団体料金。

\*身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

\*前売チケットは高松市美術館1階受付、高松市役所生協、ゆめタウン高松サービスカウンター、宮脇書店本店及び南本店にて開展前日まで販売

主催=高松市美術館

後援=朝日新聞高松総局 NHK高松放送局 OHK岡山放送 産経新聞高松支局 山陽新聞社 RSK山陽放送

四国新聞社 KSB瀬戸内海放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局

協賛=旭化成ワッカーシリコン株式会社 株式会社 平泉洋行

Takamatsu City Museum of Art

高松市美術館

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4

TEL:087-823-1711 FAX:087-851-7250

# Takamatsu Contemporary Art Annual vol.04 Regarding the Reality

高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.04  
リアルをめぐって

出品作家略歴 (50音順)

## 石黒 浩

Hiroshi Ishiguro <http://www.geminoid.jp/ja/>

1963年滋賀県生まれ。大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士課程修了。ヒューマノイドやアンドロイド、自身の風貌に酷似した遠隔操作型ロボットのジェミノイドなど、多数のロボットを開発。2010年「あいちトリエンナーレ」にて、アンドロイド演劇「さようなら」(脚本・演出:平田オリザ)を世界初上演。2012年、人間国宝の落語家、桂米朝をモデルにした「米朝アンドロイド」を発表。同年「アルスエレクトロニカ」(オーストリア)、「アノニマスライフ」(東京・ICC)に出品。現在、大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授(特別教授)、ATR社会メディア総合研究所石黒浩特別研究室室長。



《米朝アンドロイド》2012年

## 大西伸明

Nobuaki Ohnishi [nobuakionishi.com/](http://nobuakionishi.com/)

1972年岡山県生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科版画専攻修了。手のひらに乗る小さなものからテトラポットのような巨大なものまで、日常的な物体を樹脂で複製しアクリルで精巧に彩色したものを設置し、複数性と単一性が交錯する特異な空間を作り上げる。主な個展に、2006年「Desktop, Dress, Gray」(国際芸術センター青森)、2008年「LOVERS LOVERS」(富山・発電所美術館)、2011年「untitled」(兵庫県立美術館)など。現在、京都市立芸術大学准教授。



《doramakan》2013年



《kagi》2010年

展覧会アドバイザー略歴 (50音順)



## 木ノ下智恵子

Chieko Kinoshita

1994年神戸芸術工科大学大学院修了。専門は、現代芸術に関する企画制作(プロデュース/アートマネジメント)、文化政策等。現代美術家の個展、若手芸術家育成プログラム、アートマネジメント講座、都市のアートプロジェクト、エイズ国際会議公式プログラム、近代産業遺産を活用したプロジェクトなど、多岐に渡る芸術実験を試みる。書籍の企画監修・編集に『鳥袋道浩:見えないところに行けるけど、見えてるところになかなか行けない』、『湊川新開地ガイドブック』、『アートツーリズムブック「大阪考観」』など。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授。



## 山口裕美

Yumi Yamaguchi

アートプロデューサー&ディレクター。アーティストが孤軍奮闘する日本の現代アートの実況の中で、常にアーティストサイドに立ったサポート活動を続けている。日本の現代アートを世界に向かって発信するその活動から「現代アートのチアリーダー」の異名を持つ。公募展審査員や美術館のアドバイザーの仕事も多い。主な著書に、『観光アート』、『TOKYO TRASH web the book』、『現代アート入門の入門』、『Cool Japan-疾走する日本現代アート』、『芸術のグランドデザイン』など。NPO法人芸術振興市民の会理事長、公益財団法人 現代芸術振興財団ディレクター、玉川大学非常勤講師。

年に一度の現代アートのグループ展「高松コンテンポラリーアート・アニヴァーサリー」。5回目の開催となる今回のテーマは「リアル＝現実」です。

出品アーティストは、石黒浩、大西伸明、小沢裕子、橋爪彩の4人。  
**石黒浩** (いしぐろひろし/1963～) は、微細な動きから肌の質感まで人間そっくりのアンドロイドの製作により世界的な注目を集めるロボット研究者です。今回は人間国宝の落語家、桂米朝がモデルの《米朝アンドロイド》が登場します。**大西伸明** (おおにしのぶあき/1972～) は、様々な日常的な物体を樹脂による型取りと彩色により複製し、空間に配置します。ときに一部分のみ彩色されず透明の樹脂がむき出しになっているそれら物体たちは、空間の中で響きあい、見る者の記憶や現実感を静かに揺さぶります。**小沢裕子** (おざわゆうこ/

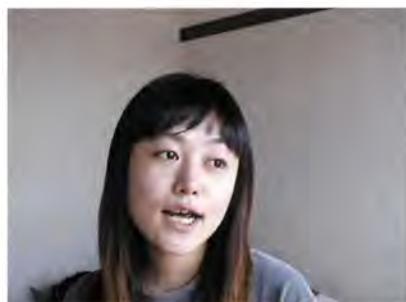
1984～) は、インターネットで見つけた見知らぬ人物の映像に字幕やアフレコをつけるなど、現実を素材としながらも視覚や聴覚を巧みに操作し、私たちがフィクショナルな世界へと心地よくいざないます。  
**橋爪彩** (はしづめさい/1980～) は、ハイヒール、ソックス、脚など、「少女」もしくは「女性」をシンボライズするような図像を超絶的な写実技法で描き、彼女たちが日常の中でひそかに見せる官能的な美の世界を私たちに垣間見せてくれます。

リアルとフィクションが錯綜する現代社会。アーティストたちはその中でリアルとどのように向き合い、表現するのでしょうか? 気鋭のアーティスト4人が描く「現代のリアル」の様々なかたちをお楽しみください。また同様のテーマによる高松市美術館コレクション展「もうひとつのリアル」も同時開催しますので、こちらも楽しみに。

## 小沢裕子

Yuko Ozawa [pa03040yo.web.fc2.com/](http://pa03040yo.web.fc2.com/)

1984年千葉県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。インターネットで見つけた見知らぬ人物の映像に字幕やアフレコをつけるなど、視覚や聴覚を巧みに操作し謎めいた世界を出現させる。主な展覧会に、2012年「ある小話/作家ドラフト2012」(京都芸術センター)、同年「それはあります、そして、唯一の私は世界ですか?」(東京・Art Center Ongoing)、2014年「sound mind sound body」(小金井アートスポット シャトー2F) など。



《語呂合わせ》2005年



《ファッション》2013年

## 橋爪 彩

Sai Hashizume <http://www.saihashizume.com/>

1980年東京都生まれ。東京芸術大学修士課程絵画専攻(油画)修了。女性の身体やハイヒールなどの題材を圧倒的な油彩技術によりリアルに描きだす。主な展覧会に、2009年 所沢ビエンナーレ「引込線」(埼玉)、2012年「sometimes we can't choose where we die」(京都・イムラアートギャラリー)、2013年「未来を担う美術家たち DOMANI・明日展」(東京・国立新美術館)、2014年「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」(大阪・国立国際美術館) など。



《Slowly, faster》2005年  
Courtesy of imura art gallery



《Red Shoes Diary (Berlin #8)》2009年  
Courtesy of imura art gallery

## 同時開催 高松市美術館コレクション展「もうひとつのリアル」

上田薫、金昌烈、嶋剛、岡田修二らの写実を極めた絵画作品をはじめ、須田悦弘の超絶技巧による木彫作品、森村泰昌の17世紀スペイン・リアリズム絵画を題材にした立体作品、パブロ・ピカソのリアリズムの手法による銅版画作品など、20世紀以降のアーティストたちによる「リアル」をめぐる表現の数々を、高松市美術館コレクションによりご紹介いたします。



上田薫《なま玉子 J》1978年



須田悦弘《チューリップ》2002年



森村泰昌《ボデゴン(鼻つき洋梨)》1992年

# 高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.04 リアルをめぐって

## 関連イベント

お申込み・お問合せ先＝高松市美術館 tel.087-823-1711

### ●アーティスト&アドバイザー・トークⅠ

5月31日(土) 14:00～16:00(開場13:30)  
出演:大西伸明・橋爪彩(ともに出品作家)  
山口裕美(本展アドバイザー)

### ●アーティスト&アドバイザー・トークⅡ

6月8日(日) 14:00～16:00(開場13:30)  
出演:石黒浩・小沢裕子(ともに出品作家)  
木ノ下智恵子(本展アドバイザー)

\*Ⅰ・Ⅱともに…1階講堂にて/先着150人/無料/内容:出品作家と本展アドバイザーが、自身の創作や今回の展示などについて、トーク、ディスカッションします。

### ●橋爪彩ワークショップ「写実絵画入門」

6月1日(日) 9:30～12:30  
3階講座室にて/小学4年生～大人  
先着15人(5月2日8:30～電話申込)  
/受講料500円(別途材料費100円が必要)  
内容:橋爪彩氏(本展出品作家)を講師に迎え、写実表現の基本を学びます。鉛筆によるリンゴのデッサンを行なう予定です。



橋爪彩「誘い惑わす」  
2011年(参考)

### ●大西伸明ワークショップ「石膏型取り入門」

6月1日(日) 14:00～17:00  
3階講座室にて/小学生～大人先着15人(5月2日8:30～電話申込)/受講料500円(別途材料費500円が必要)  
内容:大西伸明氏(本展出品作家)を講師に迎え、石膏による物体の型取りを体験します。

### ●桂米團治 落語ワークショップ

6月7日(土) 11:00～12:30  
1階講堂にて/小学4年生～大人先着60人(5月2日8:30～電話申込/空きがある場合は当日参加も可)/受講料500円  
内容:父・桂米朝に師事し、現代上方落語をリードする桂米團治氏を特別講師として迎え、落語にみる「リアルなしぐさ」を体験しながら楽しく学びます。



桂米團治氏

### ●米朝アンドロイド&桂米團治 スペシャル落語公演

6月7日(土) 14:00～15:30  
出演:米朝アンドロイド、桂米團治(落語家)ほか  
2階展示室にて/定員70人(当日12:00より1階受付にて整理券配布)/整理券と観覧券が必要  
内容:米朝アンドロイドと桂米團治氏による夢の「親子」落語共演が実現!上方落語の粋をご堪能ください。  
特別協力:米朝事務所  
\*米朝アンドロイドによる落語実演を生でご覧いただける機会はこのイベント1回限りです。普段は「待機モード」(声なし、身体各部の動きのみ)のアンドロイドをご鑑賞いただき、落語実演風景はモニターでご覧いただけます。

### ●小沢裕子 子どものアトリエ「アフレコされてみよう!」

6月8日(日) 9:30～12:30  
3階講座室にて/小・中学生先着15人(5月2日8:30～電話申込)/受講料500円  
内容:小沢裕子氏(本展出品作家)を講師に迎え、小沢氏が作品制作に用いる「アフレコ」(映像に声をつけること)の手法を用いて映像作品を制作します。子どもたちによるナレーション映像に大人がアフレコをします。



小沢裕子「スピーチ」2009年(参考)

### ○エントランス・ミニコンサート「音楽とリアル」

6月21日(土) 13:30～14:00  
1階エントランスホールにて/無料/出演:田所博(フルート)、大山晃(バリトン)、大山まゆみ(ピアノ)/曲目:吉松隆作曲「デジタルバード組曲」他

### ○ギャラリートーク(展示解説)

・学芸員:6月21日(土) 14:00/2階展示室にて/観覧券が必要  
・ボランティア:会期中の日曜日11:00、14:00(6月8日14:00はなし)

### ○アートで遊ぼう! (子ども鑑賞プログラム)

6月21日(土)「アニュアル展」、7月26日(土)「三沢厚彦展」、8月23日(土)「3期常設展」  
9:30～11:00/3階講座室にて/小学3～6年生先着15人(5月2日8:30～電話申込)/無料/1回のみ参加も可

### ○友の会スペシャルイベント「ことばとあそぶ」

6月7日(土) 16:00～17:30  
講師:篠原資明(当館アートディレクター)  
1階喫茶室にて/中学生～大人先着20人(5月9日8:30～電話受付)/無料(観覧券が必要)  
内容:篠原氏が考案した「超絶短詩」(1つの言葉を分解する詩)を用いて、美術作品から受けた感想をことばに置き換える作業を楽しく体験していただきます。

## その他のお知らせ

### ○常設展

第1期 6月8日(日)「ある風景の中で—新収蔵品とともに」[讃岐漆芸—テーマとヴァリエーション]  
第2期 6月14日(土)～8月17日(日)「現代のユーモア」[彫りの系譜]

### ○次回特別展

「三沢厚彦 ANIMALS 2014」7月11日(金)～8月24日(日)

### ○高松市塩江美術館

「及川みのる展 ムルヘンカモン」  
4月27日(日)～6月15日(日)  
\*JR高松駅からバス60分+徒歩15分。豊かな自然に囲まれ、近くに温泉もあります。

発行日から1年間何度でも楽しめる  
高松市美術館  
年間パスポート  
パスポート3000円(65歳以上1500円)  
ぜひご利用下さい。



### 交通のご案内

JR 四国—JR高松駅から南へ徒歩15分  
こつでん—瓦町駅または片原町駅から徒歩10分  
バス路線—紺屋町バス停から徒歩3分  
駐車場—美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)

